

# 肩・膝・腰「運動器の健康」を支える

丸の内病院は、地域で生活する人々がいつでも健康に自分らしく過ごせるよう、地域の医療機関と連携して安全で質の高い医療・介護サービスを提供しています。地域の中規模基幹病院として、地域密着型診療科と専門特化型診療科とが互いに協力連携して多職種のスタッフによるチームを組み、お産から緩和ケアまで、人生のさまざまな側面において専門的サポートを行っています。ここではいずれも整形外科（上肢外科）医師で、2021年10月に新院長に就任した百瀬敏充院長と中土幸男理事長に、同院の「肩・膝・腰」運動器の健康を支える「取り組み」について聞きました。

## さまざまな連携で

### 患者をサポート

整形外科は、「上肢外科」「下肢関節外科」「脊椎外科」の3つの専門領域がそれぞれ、医師

を中心に作業療法士、理学療法士などを加えたチーム医療で患者さんの診療に当たっています。



百瀬敏充 院長（上肢外科）

中土幸男 理事長（上肢外科）



縄田昌司 医師  
（下肢関節外科）



堤本高宏 医師  
（脊椎外科）

また当院の活動の基盤となる13のセンター機能のうち、整形外科の運動器関連としては人工関節センター、上肢外科センター、脊椎外科センター、リウマチ膠原病センター、スポーツ医学センターがあります。患者さんに安心して治療を受けてもらうために、院内の他のセンターとも協働しています。

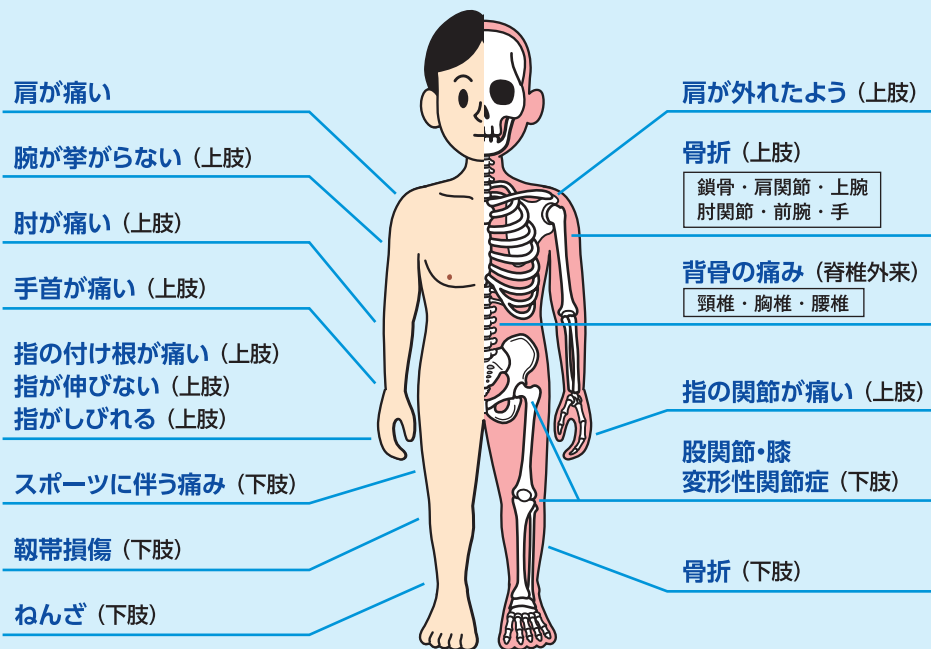
地域密着型の整形外科として、地域の医療機関との連携は、患者さんの健やかな生活を持続させるために必要です。当院では必要となる専門的な治療を提供し、その後の経過診療は患者さんが通いやすい地域の医療機関に引き継ぎます。連携を通じて、切れ目のない患者さんのサポートを目指して参ります。

## 運動器を健康にし 健康寿命延伸に取り組む

高齢者の転倒などによる骨折は健康寿命を5年縮めるといわれています。厚生労働省の2019年の国民生活基盤調査では、介護が必要となった主な原因は骨折・転倒と関節疾患を合わせた運動器疾患が24%を占め、ほかの疾患を上回り1位となっています。

当院では、運動器の衰えや不調を予防・改善し、健康寿命を伸ばす取り組みを進めています。特に骨粗しょう症は骨折の連鎖が起こりやすいため、患者さんと共に予防に努めています。専門の外来を設置し、多職種連携システム「骨粗しょう症リエゾンサービス（OLS）」制度を活用した患者さんのデータベースを整備、「骨粗しょう症地域連携パス」を作り、地域の医療機関と患者さんの情報を共有しています。

## 整形外科ではこんな患者さんを診ています



## 3つの専門領域で 運動器の健康を支える

運動器とは骨や筋肉、関節や神経の総称で、体を動かす仕組みのこと。整形外科の使命は、この運動器の健康を支えることです。

当院整形外科は常勤医師7人と非常勤医師3人が診療に当たり、2020年の1年間（1～12月）に1796例の手術を行いました。ここでは整形外科の3つの専門領域を紹介します。

### ■上肢外科（手、肘、肩）

手、肘、肩の病気に広く対応。手のしびれ、肘の変形、肩の痛みなどを訴え、保存的治療から手術治療へ切り替える必要がある患者さんを主に診療しています。

手術では、例えば関節リウマチ疾患への手指人工関節手術など、手指、肘、肩の人工関節手術にも対応しています。

### ■下肢関節外科（膝、足、股）

股関節から膝といった下肢全体をトータルで診察し、股関節や膝関節の変形性関節症の手術を多く手掛けるなど、運動器の衰えの改善を目指しています。

手術は、人工関節置換術を中心に専門的な知識と技術を要する手術手技を取り入れ、患者さんのQOL（生活の質）を向上させるよう取り組んでいます。

### ■脊椎外科（脊椎）

首（頸椎）から腰（腰椎）まで、手や足の神経の通り道でもある背骨（脊椎）の診療に当たっています。しびれや歩行障害など

神経障害があり、手術の必要な患者さんを主な対象にしています。

手術では、体に負担の少ない低侵襲手術を取り入れ、患者さんの早期復帰を目指しています。

## 皆さまに寄り添い 地域に貢献

当院ではスペシャリスト専攻医の募集も開始し、基幹病院としてさらなる人材育成にも力を入れていきます。

そしてこれからも地域の皆さまが快適に生活できるよう、お困りの方一人一人に寄り添いながら最適な治療をすることで、地域に貢献して参ります。

社会医療法人 抱生会  
**丸の内病院**

〒390-8601 松本市渚1-7-45 TEL.0263-28-3003

<http://www.marunouchi.or.jp/>

丸の内病院 検索